

11月給食だより

「いただきます」「ごちそうさま」に込める感謝の気持ち

11月23日は「勤労感謝の日」です。日頃お世話になっている方々や、食の恵みに感謝をする日になります。日本では食べる前に「いただきます」、食べ終わると「ごちそうさま」と挨拶をする習慣がありますが、それぞれにどのような意味があるかご存じでしょうか？

いただきます

「いただく(頂く/戴く)」は、「頭にのせる」という意味があり、身分の高い人から物もらう際、上に捧げて敬意を表した動作にちなむ言葉です。自然の恵み、生き物の命をもらうことへの感謝を表します。



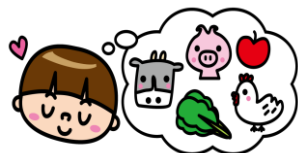
ごちそうさまでした

「ちそう(馳走)」とは、「食事を用意するために走り回ること」を意味しており、この食事が出来上がるまでに関わった人びとへの感謝の気持ちが込められています。



「食べる」とは、**生き物の命と引き換えに自分の命をつないでいく**ことです。生き物から命を頂くことで私たちは生きています。また、皆さんの前に食事が出てくるまでには、料理を作る人ももちろん、農作物や家畜を育てる人、魚をとる人、食材を運ぶ人、食材を販売する人など、大勢の方が関わっています。その方々へ、そして食べ物となってくれた命へ、感謝の気持ちを込めて挨拶し残さず食べましょう。

「いただきます」
「ごちそうさま」
そして、いつもありがとう！



給食を通して地産地消の良さを知ろう！

地産地消とは「地域で生産された農林水産物を、その地域で消費する」取り組みです。学校給食では、地域でとれた「地場産物」を活用することで、地域の産業や食文化への理解を深め、地域への愛着を育むとともに、環境問題や食料自給率といった課題についても目を向ける機会にしたいと考えています。

地産地消の良さとは？



新鮮な旬の味覚を味わうことができる



生産者の顔がわかり、安心感が得られる



地域内で資金が還元され、地域経済の活性化につながる



農業が活性化することで農地が保全され、景観の維持や洪水の防止につながる



運送距離が短くなるのでガソリンやCO2排出量が減り、環境に優しい



ESD(持続可能な開発目標)の達成に貢献できる



学校給食に地場産物を活用する効果

地域の産業や食文化への理解を深めることができる



食料の生産、流通に関わる人々に対する感謝の気持ちを育むことができる



学校と地域との連携・協力関係を構築できる



直売所や道の駅、スーパーマーケットの地場産物コーナーなどで足立区産、東京都産の食品が手に入ります。地場産物以外にも、自分が応援したい地域や被災地の産品を選ぶことは、その産地の生産者や町の人々を応援することにつながります。